

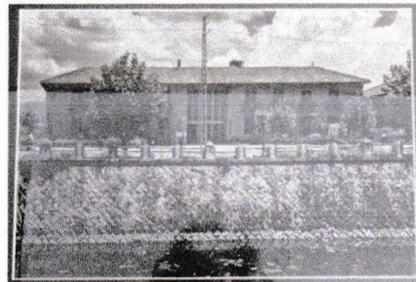
四国電電ビル物語

NTT四国のビルは、明治20年代、夏目漱石が教鞭をとった松山中学の跡地にあります。松山中学は大正5年に現在の持田町へ移転し、その後は松山赤十字病院になっ

ていましたが、戦災で全焼し、旧城北練兵場の一角に移転したので、その跡へ松山通信局庁舎が建てられました。

そうした由緒ある場所なので、昭和37年の電電ビル建築に際し、漱石を記念するモニユメントが造られ、当時を偲ぶよすがとしたのであります。

その記念碑の側には記念樹も植えられました。記念碑には、「漱石ゆかりの地松山中学



旧電電ビル(昭和22年8月18日落成)

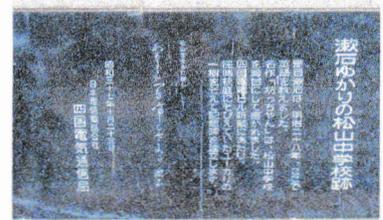


現在のNTT四国ビル(昭和37年10月23日落成)

跡」そして、「松山を去るに際し」と前書きされた漱石の俳句、「わかるゝや一鳥啼いて雲に在る」が刻まれています。

記念樹は、松山中学時に校庭にそびえていたユーカリの苗です。その樹も今では大きく繁っており、松山中学を偲ぶかのようにです。

この歴史ある地において、NTT四国がますます繁栄していくことを祈念します。



漱石の記念碑

〈四国電電ビルの移り変わり〉

- ・昭和18年2月1日 松山市末広町の伊予鉄道社友会館を借り受けて、四国四県の通信業務を管轄する松山通信局が設置されるが、戦争が日増しに厳しくなり、空襲の恐れや社会情勢の目まぐるしい変化に伴い、庁舎を移転せざるを得なかった。
- ・昭和19年4月27日 松山市一番町の元商工経済会の仮庁舎へ移転
- ・昭和20年7月10日 松山市清水町(現 文京町)の松山経済専門学校(現 松山大学)へ移転
- ・昭和21年1月 松山市大可賀の丸善石

油の倉庫へ移転

- ・昭和21年6月8日 松山市二番町の仮庁舎(後の郵政弘済会の建物。現NTT四国ビルの東方200m)へ移転
- ・昭和22年8月18日 松山市一番町4・3の元日赤病院跡に、ようやく自前の庁舎落成(上の写真)
- ・昭和24年6月1日 電気通信省発足により、郵政と電気通信部門に二分
- ・昭和26年1月16日 庁舎狭隘のため、郵政部門が宮田町へ移転
- ・昭和37年10月23日 木造老朽化より鉄筋コンクリートの庁舎落成(現在のNTT四国ビル)



旧四国電電ビルの写真を撮られた丹下友文様から三ツ矢本部長に寄贈